

平成 28 年度
横須賀美術館 運営評価報告書
(一次評価)

平成 29 年 (2017 年) 6 月

横須賀市教育委員会

美術館運営課

I 美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年6月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。
- ・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。
- ・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。
- ・平成28年度は、これまで毎年達成すべき観覧者数としてきたミニмумライン10万人以上を達成目標とします。

〔一次評価の理由〕

- ・年間観覧者数100,000人という目標設定に対し実績は108,413人となり、達成率108%と目標を上回りましたが、前年度より減少したことから「A」評価としました。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
観覧者数	101,841 人	113,007 人	114,861 人	108,413 人

注) 美術館を利用した人の実際の姿を表すものとして、展示を観覧した人の数である観覧者数のみを表記することとしました。

展覧会名		観覧者数 見込(人)	観覧者数 実績(人)	達成率
企 画 展	嶋田しづ・磯見輝夫展	2,000	1,173	58%
	さくらももこの世界展	22,000	24,740	112%
	自然と美術の標本展	23,000	26,876	117%
	女性を描く	24,000	15,437	64%
	新宮晋の宇宙船	10,000	11,786	118%
	第68回児童生徒造形作品展	14,000	14,259	102%
	中村光哉展	9,000	8,625	96%
所蔵品展のみの期間		5,000	5,517	110%
合 計		109,000	108,413	99%

【実施目標】

- ・ 様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。
- ・ 各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。
- ・ 外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。
- ・ 旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。
- ・ 商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。
- ・ 市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。
- ・ 広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。
- ・ そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのSNSを活用していきます。

〔一次評価の理由〕

- ・ 無料での情報掲載数は目標を下回ったものの、目標としていたツイッターのフォロワー数8,000人、商業撮影の件数等が目標を達成したため、評価ができるものと考えて「A」評価としました。

《広報・集客促進事業》

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

(1) 訴求活動による集客促進

- ・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース
- ・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は 197 件となり、目標の 220 件を達成することができませんでした。

(単位：件)

媒体	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
新聞	53	63	53	52
雑誌	64	85	55	64
Web	21	34	26	11
フリーペーパー	47	62	57	42
書籍	10	7	4	4
会報誌	5	8	8	4
TV	13	16	12	11
ラジオ	1	6	6	4
その他 (カタログ等)	1	4	6	0
合計	215	285	227	192

- ・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信
⇒毎月の広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載
- ・公共交通機関への広告掲出
⇒京浜急行線 駅貼り（2週間）5回、窓上（4週間）5回
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
⇒東急東横線 窓上（1ヶ月）1回
※ 女性を描くで実施
⇒京王線 新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）3回
※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施
⇒横浜駅 デジタルサイネージ（1週間）
※ さくらももこ展、標本展、女性を描く、中村光哉展
- ・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒美術系雑誌での広告 芸術新潮 1回、月刊ギャラリー 1回
※ 新宮晋展、中村光哉展でそれぞれ実施
⇒新聞、タウン紙等での広告
毎日新聞、タウンニュース、はまかぜ新聞 計3回
※ さくらももこの世界展、女性を描く、中村光哉展などで実施
- ・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
⇒ホームページは随時更新しています。

⇒美術館公式ツイッターの運用状況

フォロワー数は8,303人で昨年度末4,054人より約4,209人増加しました。
 フォロワー数の増加の理由としては、展覧会場内の作品撮影を許可し、SNS
 上で拡散を呼びかけた『標本展』の影響や、1日1件以上を目標に地道にツイ
 ートを行っていることなどが考えられます。

【参考】平成29年3月31日現在 フォロワー：8,303人、ツイート：2,759回

※ ツイッターは平成24年9月29日より運用開始

⇒フェイスブックの運用状況

(運用開始:谷内六郎館 平成27年7月31日～、横須賀美術館9月9日～)
 横須賀美術館：1,280「いいね!」、谷内六郎館：170「いいね!」
 SNS毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。

- ・インバウンド推進の第一歩としての英語版パンフレット作成・配布
 ⇒館内用英語パンフレットをリニューアルし、米海軍基地内への配布を検討
 しましたが、米海軍基地としては有料施設については配布できないという
 回答を受け断念しました。今後はインバウンド向けの情報として、英語版
 ホームページの充実も含めさらに検討を行います。

(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進

- ・コンサート等、各種イベントの開催
 ⇒マジックワークショップ、クリスマスコンサート、「蓄音機で名曲を」
 を開催
- ・年間パスポート、前売り券の販売

	販売場所	27年度		28年度	
		販売枚数	利用回数	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	537枚	2,523回	318枚	1,949回
	芸術劇場	17枚		15枚	
	計	554枚		335枚	
前売り券	美術館	101枚	232回	53枚	228回
	芸術劇場	160枚		204枚	
	計	261枚		257枚	

年間パスポートの売り上げが27年度に比べ減となっているのは、浮世絵展に
 おいて前・後期の作品を見る観覧者向けにパスポート購入を進める販売キャ
 ンペーンを行ったため。

(3) 外部連携の推進

①他部局との連携

- ・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信
 ⇒カレーフェスティバル(5/14-15)や産業まつり(11/5-6)などへの協賛
- ・集客促進事業への協力
 ⇒サイクルロゲイニングへの会場提供及び協賛

- ・米海軍横須賀基地在住者の誘致
⇒What's New in Yokosuka (外国人向け広報紙) への展覧会情報の掲載

- ・インバウンド向けツアーの受入
⇒日産自動車インドネシア研修生横須賀視察ツアー
- ・自然と美術の標本展での自然・人文博物館との共同展示
- ・ふるさと納税へ商品提供
⇒観覧券+レストランアクアマレーの食事券の提供

②民間事業者との連携

- ・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信
⇒広報協力(観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ ほか)
⇒横浜国立大学学園祭(清涼祭 6/4-5、常盤祭 10/29-10/31)、
日本大学学園祭(法桜祭 11/3-5)、
立正大学(橘花祭 11/5-6)、
慶応大学(矢上祭 10/8-9)
大人のための文化祭(1/29に市内で開催のアートイベント)への協賛
⇒日産スタジアムの横浜F・マリノス戦へのブース出店(8/29)
⇒横須賀観光協会主催の米海軍基地居住者向けヨコスカサークルバスへの参加
- ・福利厚生団体等との割引施設契約の実施
⇒JAF、JTBベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会
神奈川県市町村職員共済組合 など

③近隣地域との連携

- ・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加
⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館PR
- ・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催
⇒観音崎フェスタへのブース出店(11/3)
- ・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒タイアップメニューの実施
既に各企画展で実施している併設のレストランアクアマレーに加え、『女性展』において観音崎京急ホテルとcafé & wine みやまさで、また『中村展』において観音崎京急ホテルでそれぞれ実施。

(4) 団体集客の推進

- ・市内民間事業者と連携した企画を含めた旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問(ソレイユの丘と合同)
(クラブツーリズム、はとバス、朝日旅行)
経済部主催の観光商談会(11/1)への参加
⇒募集型企画旅行による観覧者が大幅に減少する傾向が続いているため、今後、走水低砲台等の日本遺産観光と絡めた新たな団体集客のための方策を検討していきます。

・ウェルカムトークの実施

⇒募集型企画旅行は少ないが、希望に応じて実施

	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	69	3,137	65	2,280	4	113	15	525
その他	98	3,521	88	3,690	145	5,704	114	4,187
計	167	6,658	153	5,970	149	5,817	129	4,712

(5) 商業撮影の受入と誘致

・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。

⇒昨年度は 30 件を目標としたが、最終的に 30 件となり目標を達成した。

※平成 25 年度、26 年度は新車の撮影会があり、撮影料が多かった。

(スチール 23 件、動画 5 件、スチール+動画 2 件)

年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
撮影件数	23 件	45 件	33 件	30 件
使用料	1,970,500 円	2,661,751 円	1,517,681 円	1,221,812 円

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】 市民ボランティア協働事業への参加者数延べ 2,000 人
(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)

〔目標設定の理由〕

- ・参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標の1つとなるものです。
- ・ギャラリートークボランティアを新規募集し、研修の回数を前年度より増やします。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアを募集し（継続も可能）、参加者の増加を図っています。
- ・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは2～3名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。
- ・プロジェクトボランティアの活動では、平日の活動がやや増えています。また近年、イベントへの一般参加者数は、スタッフの人数と会場のキャパシティからみて、安全に楽しむことのできる限界に近付いていると考えられますが、同じ内容で2回実施するなど、工夫もしています。
- ・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、28年度の目標は、のべ2,000人とします。

〔一次評価の理由〕

- ・28年度の延べ参加者数は2,654人となり、目標を上回りましたので、A評価としました。
- ・プロジェクトボランティアの活動について、例年は年に3回のペースでイベントを開催していますが、28年度は年4回（GW、夏休み、ハロウィン、クリスマス）行いました。企画展「新宮晋の宇宙船」で海の広場に作品を展示したため、冬イベントの規模縮小に対しての措置でしたが、昨年度よりも全体的な参加者数は増加し、健闘しました。

- ・ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアの参加者数については、新規募集を行った結果、増加しています。新しく加わったボランティアにより、ボランティアの平均年齢も下がりましたが、ボランティアの高齢化は今後も課題として捉えています。
- ・みんなのアトリエボランティアの参加者数については、例年よりもやや増えた印象です。新たに登録を希望するボランティアもおり、安定した活動ができています。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数 (単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
ギャラリートークボランティア	477	323	289	334
小学校鑑賞会ボランティア		194	195	263
みんなのアトリエボランティア		28	22	34
ギャラリートーク参加者	326	345	337	371
プロジェクトボランティア	337	229	225	283
プロジェクト当日ボランティア		50	38	27
企画イベント参加者	1,434	1,086	1,142	1,350
計	2,574	2,255	2,248	2,662

【実施目標】

- ・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。
- ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

〔目標設定の理由〕

- ・市民感覚を持ったボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。また、美術館への親しみ、愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。
- ・横須賀美術館のボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環です。ボランティアがそれぞれの創意と経験を活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、やがてそれが地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。
- ・ボランティア活動がより広がるよう努めます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動の周知や、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのように、美術館主体の事業に関わっている活動の充実などを検討していきます。

[一次評価の理由]

(全体として)

- ・新規ボランティアの参加により、新鮮な気持ちで各々活動できたようです。ギャラリートークボランティアと小学生美術鑑賞ボランティアとで活動を分けていましたが、レクチャーについては希望すれば横断的に出席できるようにしており、ボランティア同士の交流の場にもなっています。また、27年度にひきつづき、ボランティアに対し細かい対応ができています。

(ギャラリートークボランティア)

- ・新規ボランティア4名を迎え、うち1名は年度末に活動を辞退しました（仕事の都合により）。
- ・新規ボランティア向けに、近代日本美術の流れや、地域作家について学ぶレクチャーを複数回開催しました。いずれのレクチャーも積極的に参加し、レクチャー後の課題（レポートの提出）にも真摯に取り組んでいました。既存のボランティアも、改めて学ぶ機会となり、好評でした。
- ・ギャラリートークでは、当日の担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを展開しています。

(小学生美術鑑賞会ボランティア)

- ・ボランティアを新規募集し、5～6月に集中して学校受け入れのための研修を行いました。
- ・企画展毎に、担当学芸員によるレクチャーを行い、企画展でもボランティアが安心して小学生を受け入れられるようにしました。
- ・ボランティア2名に1クラスの引率をお任せしており、責任感とやりがいをもって取り組んでいただいています。

(「みんなのアトリエ」ボランティア)

- ・28年度も新規登録者が増えました。いっぽうで、これまでも活躍していたボランティアさんの経験が豊かになり、参加者と自然な交流ができています。

(プロジェクトボランティアについて)

- ・28年度は、例年よりもイベントの回数を1回増やし、「だれでも参加できる」「美術館を活かした活動」という点に留意しながら、ボランティア自身が発案し運営するイベントを行いました。それぞれのイベントは地域の行事としてすでに定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。
- ・これまで当日ボランティアとして参加していた方々へ、こちらから積極的に声掛けしたところ、イベント当日だけでなく、準備段階から参加してくれるようになりました。

- ・ボランティアの経験値が高くなったことで、イベント開催に向けて着々と準備が進められるようになりました。また、当日の進行がスムーズに行われています。

[次年度への課題]

- ・ギャラリートークボランティアおよび小学生美術鑑賞会の新規募集を行わないため、レクチャーの回数が減りますが、ボランティアがモチベーションを保ちつつけられるよう、よりいっそう気を配っていきます。
- ・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、児童の鑑賞活動をよりサポートできる体制を整えられるよう、さらに検討を進めます。
- ・ギャラリートークボランティアに新メンバーが加わりましたが、年間のギャラリートークの回数は変わりません。一人当たりの活動の機会が減ってしまうため、活動の機会を増やします。

Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上*

〔目標設定の理由〕

- ・ 展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。
- ・ 満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。またその満足度の内訳は「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」を計っており、その総合数値を出しています。
- ・ 満足度の内訳を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、「作品」「配置・見やすさ」そして解説について改善の余地があります。
- ・ ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Aの観覧者数をA（人）、企画展Aの満足度をa（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は

$$(A a + B b + C c + D d + E e + F f) / (A + B + C + D + E + F)$$

で表します。

〔一次評価の理由〕

目標の「80%以上」を超える 88.2%という数値となりました。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
企画展満足度	77.6%	84.6%	87.0%	88.2%

企画展別にみると、「さくらもこの世界展」は、広く人気のあるマンガ家、エッセイストであるさくらもこの原画を含む展覧会でした。「作品」の満足度は93.2%でした。他の項目も概ね高く、総合では92.2%でした。

「自然と美術の標本展」は博物館と連携し、植物や鉱物の標本と、現代作家6組の作品をあわせて展示しました。美術だけでなく自然科学に関心がある方たちが来館しました。標本と美術作品を同じ空間に並べたことも評価され、「作品」と「配置・見やすさ」で高い数値を出しています。

「女性を描く」展はフランスの近代絵画を中心に構成した展覧会でした。最も高い数値は「作品」で84.6%、1,200円と設定した観覧料や、キャプションの文字の見にくさから「解説・順路」は65.1%でした。ただその他のサービスも含め総合では85.0%となりました。

「新宮晋の宇宙船」展は、現代作家の近新作を中心に構成した展示で、満足度は非常に高く92.5%となりました。特に作品については98.6%、すっきりと見やすい展示だったため「配置・見やすさ」も93.9%と全体的に高い評価となりました。

「中村光哉展」では、横須賀ゆかりの友禅作家の展覧会でした。「配置・見やすさ、作品」については約90%と高い数値が出ました。その他の項目も80%を超えて概ね高い満足度を示し、総合的には86.9%となりました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが、79.2%と80%を下回りました。「作品」や「配置・見やすさ」には満足をしています、「期待どおり」だったことがこの結果になったと考えられます。

また、要素別に満足度を検討すると、「解説・順路」については、改善の余地がある高くない数値となっています。アンケートでも、「キャプションの漢字が読めない」「解説が難しい」などの意見が寄せられているので、より分かりやすい表示をしていくなど、今後の課題とします。

【実施目標】

- ・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。
- ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。
- ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。
- ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。
- ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。
- ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。

〔目標設定の理由〕

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかななくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、

利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、1カ月から2カ月程度を目安とした年間6回の企画展を計画・開催しています。また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間4回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

〔一次評価の理由〕

28年度の企画展は、アニメ、マンガで広く親しまれている「さくらももこの世界展」海外展、親しみやすいテーマ展、現代作家の個展など多岐にわたっていました。

「さくらももこの世界展」は、「ちびまる子ちゃん」の作者として知られるさくらももこ（1965-）の、表紙絵や絵本の原画約130点を中心に、立体作品やコレクション、音楽とかかわる仕事やエッセイの原稿などを展示し、その作品世界をご覧いただきました。

「自然と美術の標本展」は、標本（植物、鉱物など）をテーマにした展覧会。博物館と連携し、実際の標本と、現代作家6組（江本創、鉱物アソビ、橋本典久、原田要、plapla、山本彌）の作品をあわせて展示しました。内容も、また親子向けを対象としたことも夏の開催にあった展示となりました。

「女性を描く」展では、産業化と機械化の発展により、大きく変化したフランスにおける1850年から1939年の絵画の歴史について、「肖像」「画家とモデル」「家庭」「労働」「余暇」「夢の女」というテーマに沿い、女性像を紹介しました。音声ガイドや、近隣事業者とコラボメニューも試みました。

「新宮晋の宇宙船」展は、風や水といった自然エネルギーを受けて、ユニークな動きをみせる屋外彫刻で知られる新宮晋（1937-）が、美術館という屋内空間に挑む個展。海の広場には、世界中を旅した「ウインド・キャラバン」を展示し、好評を博しました。

「中村光哉展」は、横須賀の港の風景を友禅の技法で表現した染色家です。本展では、当館の所蔵作品に、ろう染めによる初期作品を加え、色彩豊かな中村光哉の世界の全貌をご紹介します。展覧会にあわせたきもの特典も好評でした。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。また次年度が開館10周年となるため、来館者の方によるコレクションの人気投票を第1期から3期にかけて行いました。この結果は29年度の第1期所蔵品展に反映させます。また、こうした「参加」方式のためか、全体の満足度は80.2%と大幅に上昇しました。

第1期では、生誕100年にあわせて「月岡榮貴」を特集しました。

第2期では、横須賀にゆかりのある画家・川田祐子による近・新作の油彩作品を26点、北側展示ギャラリーに展示しました。

第3期では、所蔵品の日本画とあわせて、画材や表具についてわかりやすく説明する特集「日本画っておもしろい」を特集しました。

第4期では、早世した画家・若林砂絵子の油彩、版画作品を特集しました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年4回の展示替えを行っています。28年度は、1期では「雨模様・晴れ模様」、2期では「小さきものを慈しむ」、3期は「おしゃれな、あの子」、4期では「冬物語」というテーマをたてました。また、所蔵品展と同じく29年度の10周年事業として展示に反映するために、第2期から4期にかけて来館者による投票を行いました。

教育普及事業（一般向け）については、一覧すると下表のようになります。

いずれも、参加者と講師、主催者が互いに質の高いコミュニケーションを取り合えるよう、そのつど適正な規模を考えて実施しています。また、講師と美術館スタッフが打合せを重ね、入念な準備を行なっています。結果として、規模は大きくないものの、参加者の満足度の高い事業となっています。

講演会・アーティストトーク

(単位：人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
「自然と美術の標本展」関連トークショー「鉱物趣味クロニクル」	7月9日	鉱物アソビ・フジイキョウコ(「自然と美術の標本展」出品作家)	70	—	24
「自然と美術の標本展」関連トークショー「幻獣採集探検譚」	8月11日	江本創(「自然と美術の標本展」出品作家)	70	—	78
「女性を描く」展関連講演会「近代都市パリに生きた女性たち」	10月1日	坂上桂子(早稲田大学文学学術院教授)	70	—	20
「新宮晋展」関連アーティストトーク「この星に生まれて」	11月3日	新宮晋(出品作家)	120	—	120
中村光哉展関連アート&アフタヌーンティー	3月4日	当館学芸員	25	—	24
谷内六郎館関連講演会「これ、うちにあった！谷内六郎×なつかしの道具で振り返る‘昭和’」	10月23日	瀬川渉(横須賀市自然・人文博物館学芸員)、当館学芸員	20	—	7
アーティストトーク	9月4日	川田祐子(第2期所蔵品展出品作家)	—	—	70
学芸員によるギャラリートーク(各企画展)	4月23日 7月23日 9月24日 10月15日 11月19日 12月15日 3月18日	当館学芸員	—	—	112 *合計値

展覧会関連ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
谷内六郎館関連「ろうけつ染で絵を描こう」	10月2日	すずきあき(染色家)	16	17	15
中村光哉展関連「見て・聞いて・染めて知る‘友禪’」	2月25日	平林芳子(友禪作家)	20	29	18

オトナ・ワークショップ

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
「アートなカップをつくろう」	9月18日 (2回)	白倉えみ(陶芸家)	20	61	17
「シルクスクリーンのミニノートをつくろう」	12月3日 (2回)	NEWPOSITIONS(シルクスクリーンペーパー作家)	16	18	16

映画上映会

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
冬のシネマパーティー 『エルミタージュ幻想』	2月4日	キノ・イグルー(シネクラブ)	30	68	30
	2月5日		30	46	29

教育委員会他課との連携

(単位:人)

タイトル	実施日	講師	定員	応募	参加
第40回横須賀市市民大学講座「フランス絵画のなかの女たち『女性を描く』展の背景」(横須賀市生涯学習財団との共催。ウエルシティ市民プラザ)	10月26日	浅間哲平(静岡県立大学講師)、当館学芸員	80	—	90
第38回美術館めぐり「横須賀美術館『女性を描く』展」(横須賀市生涯学習財団との共催。横須賀美術館)	10月11日	当館学芸員	40	—	40

平成28年度の講演会は、7回実施したうちの4回が出品作家によるトークとなりました。特に、現代美術の場合、作家自身のトークは、作品への理解を深めるという面でも、また、作家のファン層の来館を促すという意味でも、有効だったと考えます。

展覧会関連のワークショップは、展示作品の技法を体験する内容で2回開催しました。また、当館の特徴的な事業の一つである「オトナ・ワークショップ」では、注目度の高いジャンルをうまくワークショップに取り入れることができました。

映画上映会は、「シネマパーティー」として恒例化しているイベントで、例年通り、安定した参加者数を得ています。今回から上映場所をエントランスホールに移し、より大きなスクリーンで見られると好評でした。

また、市民大学講座との連携による教育普及事業を2件実施し、合わせて130名の参加を得ることができました。市民大学講座との連携は、平成24年度より実施しており、今後も継続していくことが望まれます。

図書室に関しては、定期購読雑誌や作品集をはじめ、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書と、自館で開催する展覧会に関連する資料、子ども向けの美術入門書やアーティストによる絵本などを収集しています。配架の工夫や室内案内表示により、利用しやすい環境づくりに努めているほか、展示室内にも案内用のファイルを置き、利用の拡大につとめています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

〔目標設定の理由〕

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするためのさまざまな取り組みをしていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととしています。平成27年度については、夏季に、世代を越えた支持層をもつTVシリーズ「ウルトラマン」をテーマとして、「ウルトラマン創世紀」展を開催しました。また、秋には、絵本作家として知られる長新太氏の回顧展を行いました。

今年度も、世代を問わず親しみのもてるテーマを取り上げるとともに、美術館でなければできない子ども向けの事業を行うよう心がけることとします。

一方で、市全体の14歳以下の人口が減少していることや、子ども向け事業の対象からははずれる中学生の観覧者数が横ばいであることなど、中学生以下の観覧者数が容易には増加しにくい条件も見られることを考慮し、平成28年度の目標は、これまで通り22,000人としました。

〔一次評価の理由〕

28年度の中学生以下の年間観覧者数は22,208人となり、目標を達成しました。

中学生以下の観覧者数 (単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
幼児	5,358	9,216	7,202	5,668
小学生	11,819	12,851	12,639	12,414
中学生	4,119	4,003	4,332	4,126
計	21,296	26,070	24,173	22,208

家族連れが訪れやすい行楽シーズンに、若年層向けの事業を実施するという年間の事業計画が、目標達成につながっています。

平成28年度は、夏休み期間に、自然科学分野と現代美術という二つのジャンルを融合させた「自然と美術の標本展」を開催したことが、家族層の集客に効果的に作用しました。8月の中学生以下の観覧者は、この年代の年間の観覧者数の1/4に当たる、5,610人となっています。

また、同展においては、市立の小中学校を通して全児童生徒に子供向けのチラシを配布しました。展覧会情報を、学校からの配布物という信頼性の高い手法で周知することには、一定の効果があると考えられます。ただし、平成28年度は、例年3つの展覧会で実施している、この全児童生徒向けチラシが、予算の都合で2回となりました。中学生以下の観覧者数に大きな伸びが見られなかったことの原因の一つと考えられます。

展覧会以外の事業としては、小・中学生の造形活動を支援する目的で、映画上映会を含めた10回の子ども向けワークショップを実施し、合計で587人（保護者を含む）の参加を得ました。

鑑賞の面では、小学生美術鑑賞会（全市立小学校6年生約3,500人が参加）、中学生対象の鑑賞教室（保護者を含む196人が参加）、未就学児から小学校低学年を対象とした親子向け展覧会ツアー（4回実施、17組35人が参加）、保育運営課との連携による市立保育園10園を対象とした鑑賞プログラム（約300人が参加）など、年齢別にさまざまな鑑賞活動支援事業を行なっています。いずれも、継続的に実施しているものですが、教員や保育士との連携、他館との情報共有により、つねに発展的な内容となるよう努めています。

【実施目標】

- ・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。
- ・学校および関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。
- ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。
- ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。
- ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。鑑賞会と連動した教材「アートカード」の一層の活用促進を教員と協力しながら行う。

〔目標設定の理由〕

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、多くの学校教育現場では鑑賞の機会に乏しく、表現としての造形教育に偏りがちでした。

近年の学習指導要領では、小・中学校における鑑賞教育がより重視されるようになってきています。平成23年度から実施された小学校の新学習指導要領では、鑑賞教育のために地域の美術館を利用することに加え、学校と美術館との連携を図ることが明示されています。美術館には、先生との情報共有を密にし、学校からのニーズに応えることが求められています。

学校教育ではできない、美術館だからこそできることは何かをじゅうぶん意識しながら、鑑賞教室やワークショップ、作家との連携等充実したプログラムを企画、提供することによって、子どもたちが美術に親しみをもつ機会の拡充につとめていきたいと考えています。

[一次評価の理由]

- 平成20年度から、市内の子どもたちの作品を一堂に展示する「児童生徒造形作品展」の会場となっています。学校・幼稚園と緊密に連携しながら運営にあたっています。
- 平成19年度から実施している小学生美術鑑賞会の対応には、学芸員と専門のボランティアがあたり、ワークシートなどを利用して、鑑賞の楽しさを知ってもらえるようつとめています。受け入れ側が経験を積むことによって、内容も充実度を増しています。
- 平成28年度の小学生美術鑑賞会に際して、アートカードによる事前授業の実施状況等を各校に調査したところ、4割の学校が実施していると回答しました。事前授業によって、あらかじめ作品のイメージが伝わっていると、作品に対する児童の反応もよくなるのが分かっており、今後も活用促進を図っていくことが重要です。
- 小学生美術鑑賞会以外で来館する市外あるいは私立の小・中学校に対しても、要望に応じて、美術館でのマナー解説やワークシートの提供を行いました。
- 夏休みの時期に合わせ、中学生のための美術鑑賞教室を実施しました。鑑賞ガイドの内容が、参加する中学生のニーズに合うようつとめました。
- 子どもを対象とした教育普及事業に積極的に取り組んでいます。ワークショップなどの造形活動のほか、野外映画会や、親子向けのツアーなど、さまざまなかたちで美術を楽しむ機会を設けています。
- 「自然と美術の標本展」では、走水小学校で出前ワークショップを行い、また、横須賀市自然・人文博物館の事業とも連携したワークショップを実施しました。
- キャリア教育の面で、市立中学校の職業体験に協力しています。平成28年度は13校22人を受け入れました。
- 鑑賞支援活動については、対象となる年齢層の幅を広げています。親子向けツアーのほか、平成24年度から市の保育運営課と連携し、市立保育園全10園に対し、出前授業と来館時の鑑賞プログラムを実施しています。
- 美術館が主体となっで行なう事業だけでなく、先生が中心となり学校で行なうことのできる鑑賞教育について、研究と実践を重ねています。平成25年度に開発した鑑賞教材「横須賀美術館アートカード」（文化庁補助事業）は、市外からも注目され、平成28年度は10件の貸し出しと、2回の市外教員向け研修会を実施しました。市内においては、教員が独自のアートカードを制作して行う新しい授業の取り組みが2件あり、美術館から資料の提供を行いました。

[次年度への課題]

- 平成25年度より継続して行なってきた「地域とはぐくむ子どもための鑑賞教育基盤整備事業」は、当初予定通り、27年度末をもって、文化庁からの助成が終了しました。今後も、学校現場での活用状況を把握し、必要に応じてさらなる活用促進を呼びかけていきます。また、学校で行なわれる鑑賞教育と連動した、的確な来館プログラムについて、研究を進め、ワークシート等に反映させます。

- 中学生のための美術鑑賞教室の参加者の大半は、美術館レポートなどの宿題のためにこの事業に参加しています。宿題に役立つ情報を提供することが重要であると同時に、単なる宿題の「消化」に終わらせない、プログラムの工夫が必要です。また、学校の宿題と美術館のプログラムとが補完し合いながら中学生の鑑賞活動をサポートできるよう、美術館が用意できる夏休み中のプログラムについて、先生方にもあらかじめ詳しくお知らせするなど、学校現場への情報提供に努めます。
- 例年、約10校の小学生美術鑑賞会の日程が、「児童生徒造形作品展」の会期に当たっています。同じ小学校が毎年この会期を希望してくる傾向があり、年間行事の中で定着していることがうかがえます。ただし、作品点数の多い同展の鑑賞は、どうしても慌ただしいものとなりやすく、また児童にとっても、学校のなかでの鑑賞活動の延長に留まってしまふことが懸念されます。小学生美術鑑賞会が、「我が国や諸外国の親しみのある美術作品を鑑賞して、良さや美しさを感じ取る」契機として機能するためには、先生方と美術館とが、鑑賞会の趣旨を改めて確認し合うことが望まれます。
- 先生方が、美術館やその所蔵作品を授業で活用する際には、作品データの提供や学芸員の派遣など、先生の要望に応じたきめ細やかな協力を行っています。しかし、その点を学校に広く伝えることは難しく、また、個々の先生の授業計画をすべて把握することもできません。学校にとって一層活用しやすい美術館であるためには、先生との情報共有の機会を作り、先生方のニーズをより迅速に汲み上げていく必要があります。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	C

【達成目標】 環境調査の実施（年2回）

美術品評価委員会の開催（年1回）

〔目標設定の理由〕

美術館としての基本的な活動として、作品収集を行っていますが、購入費（基金）が充当されていないため、寄贈に頼っているのが実状です。したがって、数値目標として新規収蔵作品の数量等を設定することは不適切であると考えます。そうしたなかで、収集のための情報収集や調査を継続的に行うことの結果として、受け入れの可否を諮問するための美術品評価委員会を、年に1回開催することを数値目標とします。

また、収蔵庫の環境が作品の保管に適しているかどうか調べる環境調査を、年2回実施することを、あわせて目標とします。

〔一次評価の理由〕

収蔵施設の環境調査を、5月17日～6月16日、7月19日～8月19日の日程で2回実施し、概ね良好な結果を得ました。また、寄贈の申出のあった作品についての調査を行い、諮問のため美術品評価委員会を3月13日に開催しました。

【実施目標】

- ・ 収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。
 - ・ 適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。
 - ・ 計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。
 - ・ 所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。
-

〔目標設定の理由〕

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響を充分に考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

[一次評価の理由]

平成28年度は寄贈32点を受入れました。

これまで毎年50点を越える寄贈を受入してきたことから見ると点数は減りましたが、過去に企画展で取り上げた作家の作品（芥川（間所）紗織、川端実、磯見輝夫）、所蔵品展特集展示で展示した作品（川田祐子、若林砂絵子）、収蔵作品と関連する作品（高間惣七、矢崎千代二、伊東深水）をバランスよく収蔵することができました。

収蔵庫・保管庫について、昆虫類、菌類、気相についての調査（環境調査）を年度内に2回実施し、概ね良好であることを確認しています。開館以来継続的に行っていることには、環境の長期的な変化を観察する意味があります。

修復、額装は、作業に時間がかかることから所蔵品展での展示や他館貸出予定がある作品を優先し、修復額装4点、額装（額改修を含む）12点、新規マット装9点を行ないました。平成29年度以降も引き続き、近年の寄贈作品を中心に必要な修復、額装を行ない、既存の作品でも画面への映り込みがはなはだしいものについては、アクリルやガラスを外して額縁改修を行うなど見直しを行ってまいります。

所蔵作品の活用について、所蔵作品のうち9件125点を他機関に貸出しました。練馬区立美術館の朝井閑右衛門展、浦添市美術館の谷内六郎展の貸出点数が100点を超過しており、貸出にともなう業務（額装の見直し、作品検品、浦添市美術館への展示撤収時の立会いなど）に多くの時間を費やしました。

貸出件数から見ると、21年度16件、22年度12件、23年度18件、24年度14件、25年度14件から漸減し、平成26年度、27年度と同水準です。この数字は、美術館で全国集荷を行うような大規模企画展開催が減少していることに加え、当館への貸出依頼がある特定の作品に集中する傾向があり、そのため所蔵品展での展示計画や作品保護との兼ね合いで貸出を制限する場合があります。

以上により、例年並みの活動をしているといえますが、作品購入費の充当が途絶えている状況が解消されていないことから、一次評価を「C」としました。

[次年度への課題]

- ・ 作品購入の必要性を説明していくと共に、財源について引き続き検討を進め、たとえ少額でも作品購入費が予算配当されるよう努力します。
- ・ 収集作品を精選します。
- ・ 貸出作品の偏りを減らすため、所蔵作品の活用と周知に努めます。
- ・ 収蔵作品の増加に伴い、収蔵庫のスペースを有効活用し、作品を適切に保管します。

Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

- ・館内アメニティ満足度 90%以上
- ・スタッフ対応の満足度 80%以上

〔目標設定の理由〕

- ・これまで目標値が一定ではなく変動していましたが、一つの適正基準を設け、それに対する達成度による評価をしていただくよう、目標値を固定しました。
- ・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。
- ・満足度は、来館者アンケートの質問 8 項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい 2 項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。
- ・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24 年度から 5 段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

〔一次評価の理由〕

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成27年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
館内アメニティ満足度	88.8%	89.9%	92.6%	92.3%
スタッフ対応の満足度	78.5%	81.9%	87.5%	86.0%

館内アメニティ満足度に関しては、「美術館入口やトイレの場所がわかりにくい」など、案内サインに係るご意見をお客様から頂戴していますので、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

- ・ 建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。
- ・ 受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。
- ・ 運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

〔目標設定の理由〕

- ・ 横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。
- ・ また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。
- ・ 美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

〔一次評価の理由〕

(メンテナンス)

- ・ 谷内館の外壁や本館正面出入り口の建具に大きな劣化が見られていたので、劣化の進行防止及び美観の改善のために塗装工事を行いました。
- ・ 空調熱源設備機器の経年劣化が進行していたため部品交換等修理を行いました。
- ・ 塩害による劣化が激しい空調フィルタユニットについて交換等修理を行いました。

(清掃)

- ・ 日常の清掃について、人員が必ずしも充分ではない（開館前4名・日中1名）ので、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

(休憩所)

- ・繁忙期（GW・夏季）の休憩所を確保するため、26年度からワークショップ室前に簡易休憩所（屋外用テーブル・椅子）を設営しています。利用率も高く、ご好評を頂いていますので、今後も継続していきます。

(受付・展示監視)

- ・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすく、特に展示監視は来館者への注意などを行うため、どうしてもクレームとは切り離せない業務となっています。
以前は年に数件のクレームがありましたが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。
- ・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けているため、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようになりました。
- ・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接客マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接客チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

(ミュージアムショップ)

- ・平成29年1月に事業者が交代しましたが、従来の水準以上となるように事業者と協力しています。

(レストラン)

- ・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。また、低価格帯メニューが豊富になったことで、ランチタイムの客数は目に見えて増加しています。
- ・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。
- ・混雑時の顧客のストレスを軽減するため、土日祝日については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

(災害への備え)

- ・例年通り年2回の防災訓練を実施しました。2回目の訓練は、避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容とし、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加しましたので、充実した訓練となりました。

(その他)

- ・平成21年度より、毎月1回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。

平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者にも参加して頂いています。

- ・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に軽食等を提供できるようにしています。(平成20年度以降継続)

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】 福祉関連事業への参加者数延べ 400 人以上

〔目標設定の理由〕

- ・福祉関連の事業は、対象を限定すればするほど参加者数が減る傾向にあります。しかし一方で、対象を限定した事業展開こそ必要な分野でもあります。
- ・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成28年度の事業内容を考慮し、400人以上を平成28年度の目標値としました。

〔一次評価の理由〕

- ・28年度の福祉関連事業への参加者数は延べ359人となり、目標を下回りました。

福祉関連事業への参加者数 (単位：人)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
講演会	29	31	28	27
障害者向けワークショップもしくはパフォーマンス 2 回	26	50	45	26
	125	151		58
未就学児ワークショップ	98 [※]	39	31	39
みんなのアトリエ	214	191	189	190
託児	27	34	25	19
計	519	496	318	359

※ 未就学児ワークショップは実施年度により、子どものみの参加の場合と親子参加の場合があります。25年度は親子の合計人数。

- ・講演会の参加人数は、ほぼ例年並みです。
- ・今年度は、視覚障害者も参加することのできる福祉ワークショップを1回、聴覚障害者も参加することのできる福祉パフォーマンスを1回、未就学児向けワークショップを2回（同内容）行いました。対象や人数を限定し、より細やかなケアをできるように設定したワークショップ、当日参加可とし、より多くの方に参加していただけるパフォーマンスといったように、事業ごとに内容とねらいを明確にし、実施することができたと考えています。

- ・みんなのアトリエの参加者数は、ほぼ例年並みでした。
- ・託児の受託人数は昨年度より少なくなっています。定期託児利用者は昨年より多かったのですが、イベントのための託児利用者が少なかったためです。ただし、イベントのための託児利用者数は、抽選結果等に左右されるものなので、ニーズがなくなった、あるいは周知が足りなかったという理由ではないと考えています。

【実施目標】

- ・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。
- ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。
- ・託児サービスを積極的に周知していく。

〔目標設定の理由〕

- ・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。
- ・設備や什器を新規に導入するよりも、対話鑑賞のような人的対応を充実させることのほうが、福祉の充実につながると考えています。
- ・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。
- ・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるようにするためには、託児サービスについても広く知っていただくことが必要と考えています。

〔一次評価の理由〕

- ・障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」では、リピーターに加え、新規での参加希望者が増え続けています。チラシやHPでの広報活動や、参加者の口コミが広がっている表れと感じます。リピーターの方も、新しく参加しはじめた方も、リラックスして各々のペースで制作を行うことができます。
- ・福祉講演会「指先で読む本を広めたい！触察本の出版現場から」（7月31日）では、視覚障害者のための触察本に加え、パンフレットやフライヤー、案内板などの出版制作を手がけているイタリアの出版社社主シルヴィオ・ザモラーニ氏を講師に迎えました。媒体に適したテーマ選びや配慮する点、ユーザーや研究者との連携など、具体的でわかりやすい話が多く、参加者も納得しながら聞いていました。障害者やその家族のほか、アーティストなどが参加しており、積極的に質問していました。
- ・視覚障害者も参加することのできる福祉ワークショップ「くんくんウォーク@横須賀美術館」（12月11日）では、匂いをテーマに、観音崎公園や館内の散策、作品鑑賞を行いました。視覚障害者だけでなく、発達障害児や車いすユーザーも参加しましたが、講師やボランティアと共に、それぞれに合った内容やコースを想定して打ち合わせし

ていたので、当日は和気あいあいとした雰囲気で行うことができました。参加者はもちろん、ボランティア、担当学芸にとっても発見や学びが多いワークショップとなりました。

- ・聴覚障害者と聴者が共同で公演活動を行っている人形劇団を招いた福祉パフォーマンス「一寸法師とお楽しみ交流会」（2月19日）では、大きな身振り手振りをまじえたコミカルな人形劇を鑑賞した後、劇団員や他参加者との交流会を実施しました。交流会では、演者による自然なリードによって、初めて見る楽器や珍しい楽器に触れながら、各々の音づくりや全体での音遊びを楽しめました。いくつかの簡単な手話を覚える場面もあり、笑いの絶えない和やかな時間が過ごせたかと思います。なお、当イベントは、当日自由参加だったため詳細は把握していませんが、参加者には聴覚障害者も数名おられたようです（補聴器を付けていたり、手話でお話しされている方がいらっしゃいました）。
- ・未就学児向けのワークショップ「せっこうデコボコ～石膏でレリーフをつくろう～」（3月19日、20日）では、例年お願いしている講師の巧みなリードにより、未就学児であっても、集中して楽しく制作に取り組むことができます。今年度は、やや複雑な工程でしたが、みな説明を真剣に聞いて理解し、作品を完成させることができました（保護者は送迎時のみの入室）。
- ・養護学校については、常連の学校（中学部）に加え、はじめての学校（高等部）の利用がありました。それぞれ、特徴や要望を聞きながら当日の内容、利用するワークシートなどを提案し、実施しました。また、今年度は横須賀市の相談教室（小中学生対象）と連携しながら、来館プログラムを組むことができました。生徒の特徴や要望などもヒアリングできたので、来年以降に活かしていきたいと思います。出前授業の要望や実施はありませんでしたが、対応可能であることを来年度も周知していきたいと思います。

[次年度への課題]

- ・「みんなのアトリエ」については、参加者が固定化している傾向が見られるため、新たな素材・道具を取り入れる等、活動内容の見直しを行い、参加者の期待を維持していくと同時に、新規の参加者を募っていく必要があります。また、毎年3月にワークショップ室で行っている1年分の作品展示については、観覧者から好評を頂いていますが、広報活動の場として活用し、本事業をさらに周知するよう努めます。
- ・養護学校や支援級については、今後も継続して美術館を利用することが推測されます。毎年来館する生徒も存在し、プログラムのマンネリ化が懸念されるようです。教員と意見交換しながら、児童生徒を飽きさせないプログラムを検討・実施することが求められます。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】 電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。

〔目標設定の理由〕

- ・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約2割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。
- ・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるよう、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近3年間（H25～H27）の平均値を目安・目標とします。

〔一次評価の理由〕

	H25	H26	H27	H28 (目標)	H28 (実績)
総電気使用量(kwh)	2,571,895	2,582,595	2,540,390	2,564,960	2,441,219
水道使用量(m ³)	4,055	4,077	4,396	4,176	4,394
事務用紙使用枚数(枚)	209,241	216,104	211,250	212,198	253,550

電気使用量は平成28年度の目標数値以下となり、水道使用量・事務用紙使用枚数については、目標数値以上となりました。目標数値を上回った理由としては、以下のものがあげられます。

- (1) 観覧者増による手洗い場の利用増及びレストランの水道使用量の増
- (2) 展覧会のイベントのために使用した用紙の増

【実施目標】 職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

〔目標設定の理由〕

- ・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

[一次評価の理由]

- ・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。具体的な内容の主なものは、次のとおりです。
 - (1) 特に展覧会の委託関連の予算執行にあたっては、費用対効果の観点から委託内容を見直し、仕様書を再点検し、経費削減に努めました。
 - (2) 事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。28年度も、特定の業者でなければ実施できない業務を除き、基準外の業務でも見積り合せを実施しました。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。
- ・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。
- ・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。
- ・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

[次年度への課題]

- ・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。
- ・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。